

## 特 集

## “十勝農業ビジョン2011”が目指すもの

高橋 敏

十勝農業協同組合連合会  
帯広市西3条南7丁目14番地

## 1. 策定の目的と経過

十勝農協連では十勝農業の中期的な振興計画を5年ごとに策定しており、今次計画はタイトルの通り2011年が目標年である。策定の目的は、「管内農家が意欲を持って生産を行えるよう魅力ある十勝農業の姿を展望し、その実現のために必要となる課題を提起すること」である。

従来は独自の調査・検討により、生産面を主眼に策定していたが、今回は管内農協で構成する「JAネットワーク十勝」との連携により、流通・販売、農家経営、農協組織など農業振興全般を対象としている。計画は冊子の形で管内の全農家・農協役員および関係機関に配付した。

## 2. 計画の骨子

農産・畜産全体の基本目標は、産出額2,500億円、1戸当たり農業所得1,500万円である。これは前回計画に比較し産出額は同額、農業所得は200万円引き上げた

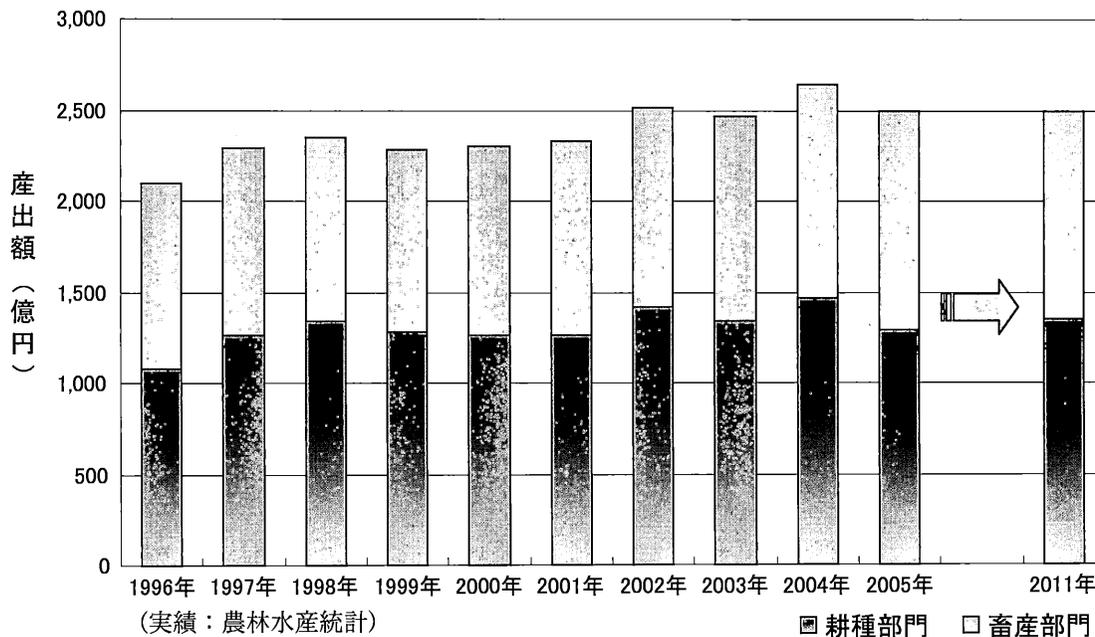
ものであり、近年の情勢下、多少高めの目標と言える。なお、前回計画の目標はほぼ達成されている。

計画ではさらに、その根拠として品目ごとの作付面積や家畜頭数、生産性や販売価格の水準などの積み上げを示し、さらに目標達成のための課題を整理している。

## 3. 畜産部門の内容

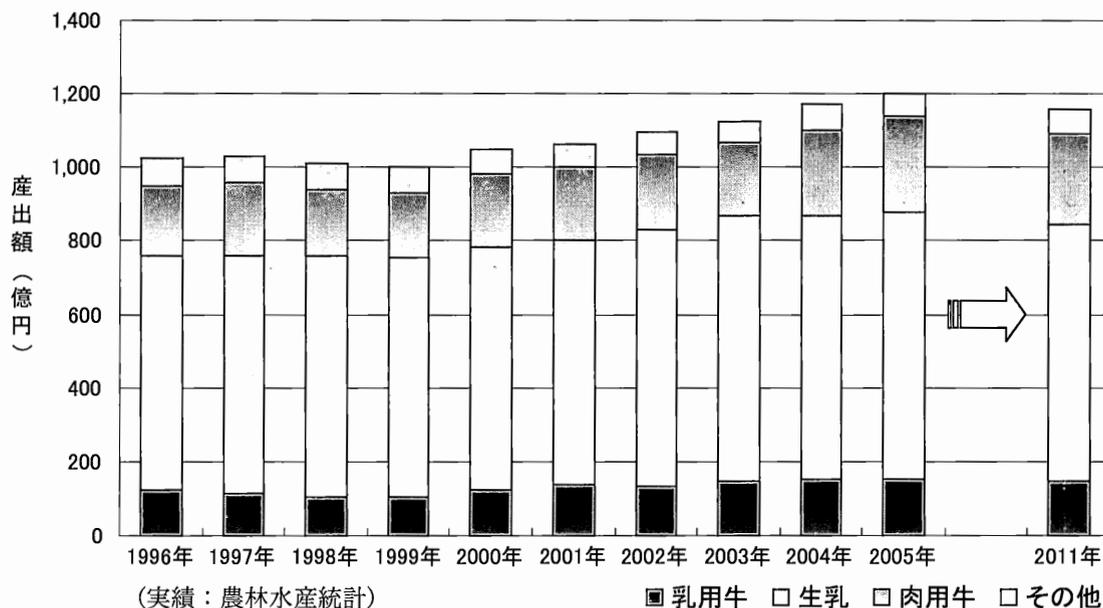
- (1)酪農は生乳生産目標を年106万トン・700億円とした。生産量を2006年度に比べ7万トン増とする一方、乳価の下落を織り込んだ。2006年からの生産調整により経産牛が4,000頭以上減少しているため、乳牛資源の早急な回復と、1頭あたりの乳量増が目標達成の前提条件となる。
- (2)黒毛和種の素牛生産は明るい情勢にある。府県産地の生産縮小などから素牛価格は当面堅調と想定され、十勝は繁殖牛の8%増頭と資質の揃った子牛の安定供給により、素牛産地の地位をより高める計画である。ホルトヤやF1についても数%の増産を計画

十勝における農業産出額の推移と目標

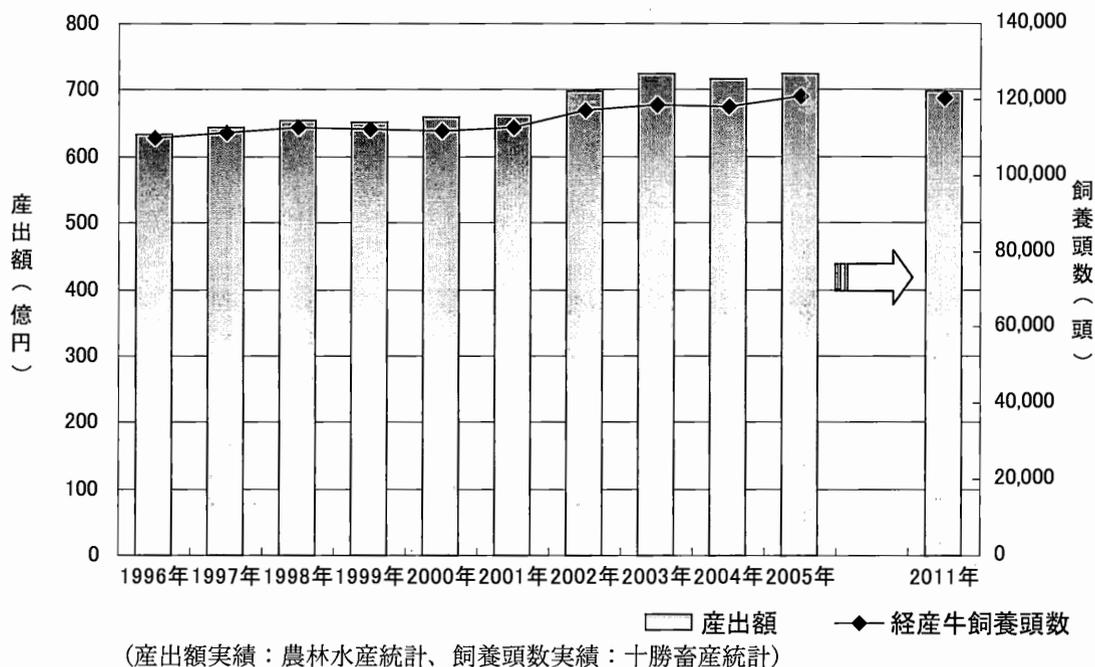


受理 2007年11月12日

### 十勝における畜産部門の産出額推移と目標



### 十勝における生乳産出額と経産牛飼養頭数



している。

(3)養豚は大幅な増頭が見込まれるが、養鶏は現状維持、馬産は戸数・頭数とも漸減が予想される。

#### 4. 目標実現への課題

以上の目標を達成するための課題を次の通り挙げる。十勝農協連は今後5年間の事業をこれらに照準を合わせて推進する。試験研究機関のご支援をお願い致したい。

##### (1)安全で高品質な畜産物の生産

・生産履歴システムによる安全・品質管理の徹底

- ・バルク乳温遠隔監視体制による高品質乳の生産
- ・十勝型和牛哺育・育成技術による優良素牛の生産および、肥育技術の向上
- ・広域的な家畜防疫体制の強化による伝染性疾病の侵入・拡散の防止

##### (2)生産コストの低減と生産性向上

- ・総合的な飼養管理技術の確立による生涯乳量の増加
- ・とうもろこしサイレージ多給型飼料給与体系の確立
- ・関係機関の連携による総合的な乳房炎対策
- ・適正な種雄牛選定と受精卵の活用による優秀な

- 乳用後継牛の増殖
- ・和牛の育種価情報の活用と優良受精卵供給体制の整備
- ・コントラクターの利用による機械コストの削減
- (3)農作業支援体制の充実
  - ・コントラクター組織の拡充
  - ・酪農ヘルパーの増強と技術レベルの向上
  - ・共同哺育・育成施設における飼養管理技術の高位平準化
- (4)生産基盤の強化
  - ・堆肥流動化の促進と耕畜連携による循環型農業の確立
  - ・草地管理の適正化と飼料用とうもろこしの増産による自給飼料生産力の強化
- (5)環境の保全
  - ・硝酸態窒素や搾乳施設雑排水による水質汚染の防止
- (6)規模拡大の促進
  - ・大型化に対応した生産技術・経営手法の確立
- (7)組織の強化
  - ・農協職員の専門性向上
  - ・広域フィールドアドバイザーによる技術普及体制の強化

